平成 21 年 3 月

GENELEC　GLM ソフト　アップデート　リリースノート
GLM v1.2.0.

GENELEC 日本総代理店
オタリテック株式会社

この度、GENELEC DSP モニタリングシステムの制御ソフト”GLM”のアップデートが行われました。現在、旧来のバージョンを使用中のお客様は、そのままご使用いただけますが、今回、新しく追加された機能をご使用される場合は、ソフトのアップデートが必要です。Windows Vista の使用を予定されているお客様も Vista への変更のためには、アップデートが必要です。なお、今回は、GLM のみのアップデートですので GLM SE に関しましてのアップデートは、ございません。また、何らかの理由で測定マイクを交換された場合も、ソフトのアップデートが必要です。加えて、すべての新機能を有効にするためには、新型のインターフェース・ボックス 8200-602 を購入する必要がございます。アップデート内容を充分に御確認いただいた上でご検討下さい。

アップデートソフトの入手方法と新型のインターフェース・ボックスの購入につきましては、営業担当にご相談下さい。新型インターフェース・ボックスは、サウンドカード機能を内蔵した専用のハードウェアーです。

新バージョンからサポートされる項目のうちの大きな特徴は、Windows 版では、”Vista”に対応したことです。Mac 版では、MAC “Panther”、” Tiger”、”Leopard”のそれぞれの OS バージョンに対応したソフトが用意されています。

注).下記の組合せにおきましては、USB 端子での通信においてエラーを起こす場合がありますのでお奨めできません。

デスクトップ MAC PowerPC G5 と

OS X Leopard のバージョン 10.5.5.より古いバージョンの組合せ

（該当バージョン ：10.5.0.～ 10.5.4.）

新型のインターフェース・ボックスとアップデートソフト GLM v1.2.0.の CD ROM のバンドルセット

品番 ：8200-602　税込定価 ¥40,950-

（旧バージョン使用のユーザー様向けセット）

8200-602 に測定マイクや接続ケーブルなどを含めた GLM v1.2.0.新パッケージのフルセット

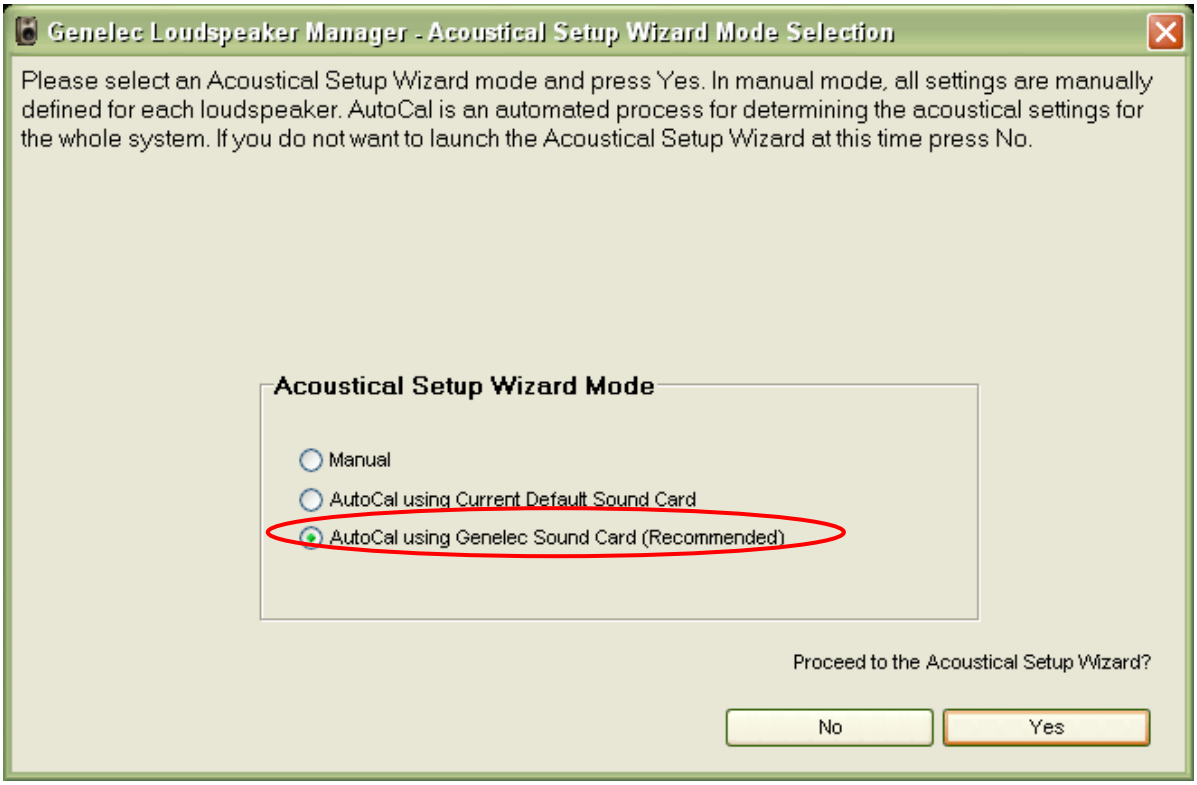
品番 ：8200-601　税込定価 ¥99,750-

（新規に DSP システムを導入されるユーザー様向けセット）

新型サウンドカード内蔵型ネットワークインターフェース・ボックス

従来のネットワークインターフェース・ボックスに加えて、高品質 FS48Hz 仕様のサウンド・モジュールを内蔵した仕様のネットワークインターフェース・ボックスが新たに登場しました。従来は、PC 内蔵タイプか外付けで既成のサウンドカードをご使用いただいておりましたが、今回の新型インターフェース・ボックスは、AutoCal 機能を使用する時に演算動作の安定性が大幅に改善されます。この新型インターフェース・ボックスに内蔵されているサウンド・モジュールは、AutoCal と AutoPhase の動作が完了すると CPU の配下から完全に切り離されるので、従来のサウンドカードのように不要なリソースを使い続けることが無くなります。つまり、GLM v1.2.0.では、ネットワーク・インターフェース・デバイス（NID）とこの内蔵サウンド・モジュール(S)とをダイレクトに結合させたり、完全に切り離したりする自動制御を行うことが可能になり合理的な安定動作を実現しています。

この新型インターフェース・ボックスは、旧バージョンの GLM では認識されませんので、v1.2.0.以降の GLM を組合せてお使い下さい。なお旧バージョンの GLM パッケージ 8200-401 を所有されている方でも、アップデートバンドルセット 8200-602 を購入いただくことで新型インターフェース・ボックスが入手できます。

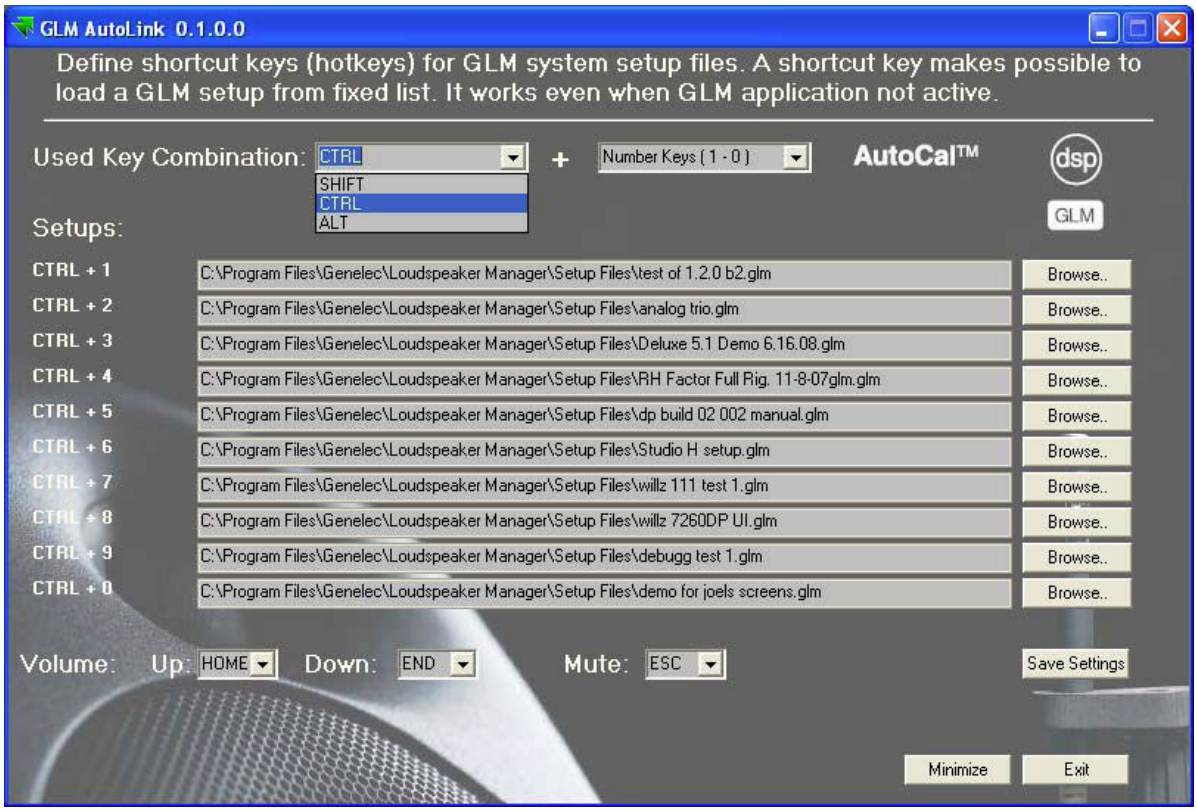


GLM v1.2.0.では、このように Acoustical Setup Wizard Mode Selection 画面で新型インターフェース・ボックスに内蔵されている GENELEC 推奨のサウンドカード(Genelec Sound Card)を選択することができます。

結線は、従来のインターフェース・ボックスと PC の間をつないでおりました音声ケーブルは不要になり、ラインレベルの音声信号は、新型インターフェース・ボックス内部だけで完結します。測定マイクのケーブルは、この新型インターフェース・ボックスに接続します。

AutoLink

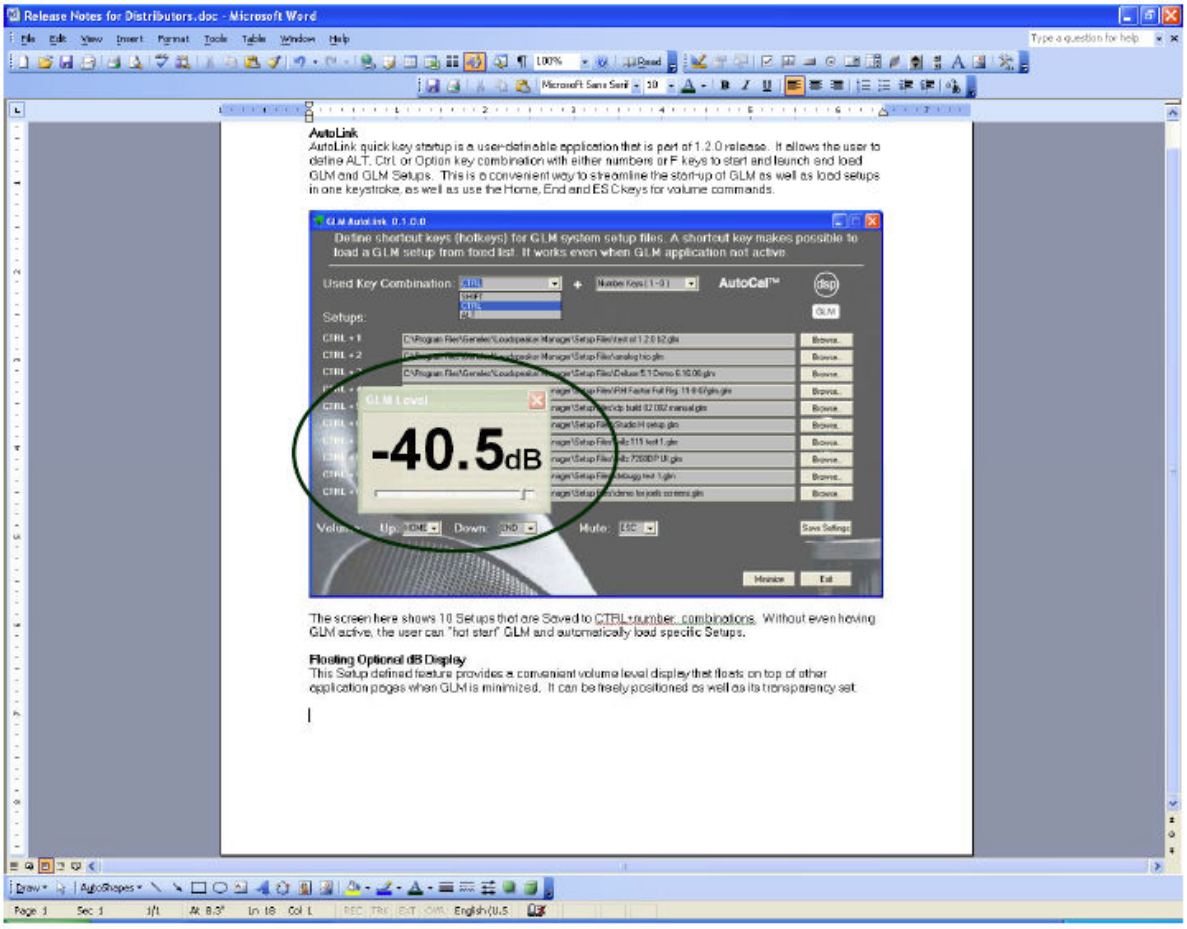
ユーザーが定義するショートカット KEY の設定を独立して行うアプリケーションが加わりました。ALT, Ctrl, 又は Option KEY と F(ファンクション)KEY や 10KEY の組合せで任意設定のロードやセットアップなどのシーケンス操作の簡略化が独自に設定できます。さらに、モニター音量の調節の為の KEY を割り当てることも可能です。見本画面では、音量 Up が HOME KEY で音量 Down が END KEY、Mute が ESC KEY が割り当てられています。



上の画面表示の通り、コンビネーションする KEY の組合せ毎に各 10 種類までのショートカット KEY の設定保存ができます。GLM アプリケーションが起動していない時でも AutoLink は、独立して起動できるアプリケーションです。したがって、どのような状態でも AutoLink を起動して独自に設定を行うことができます。

Floating Optional dB Display

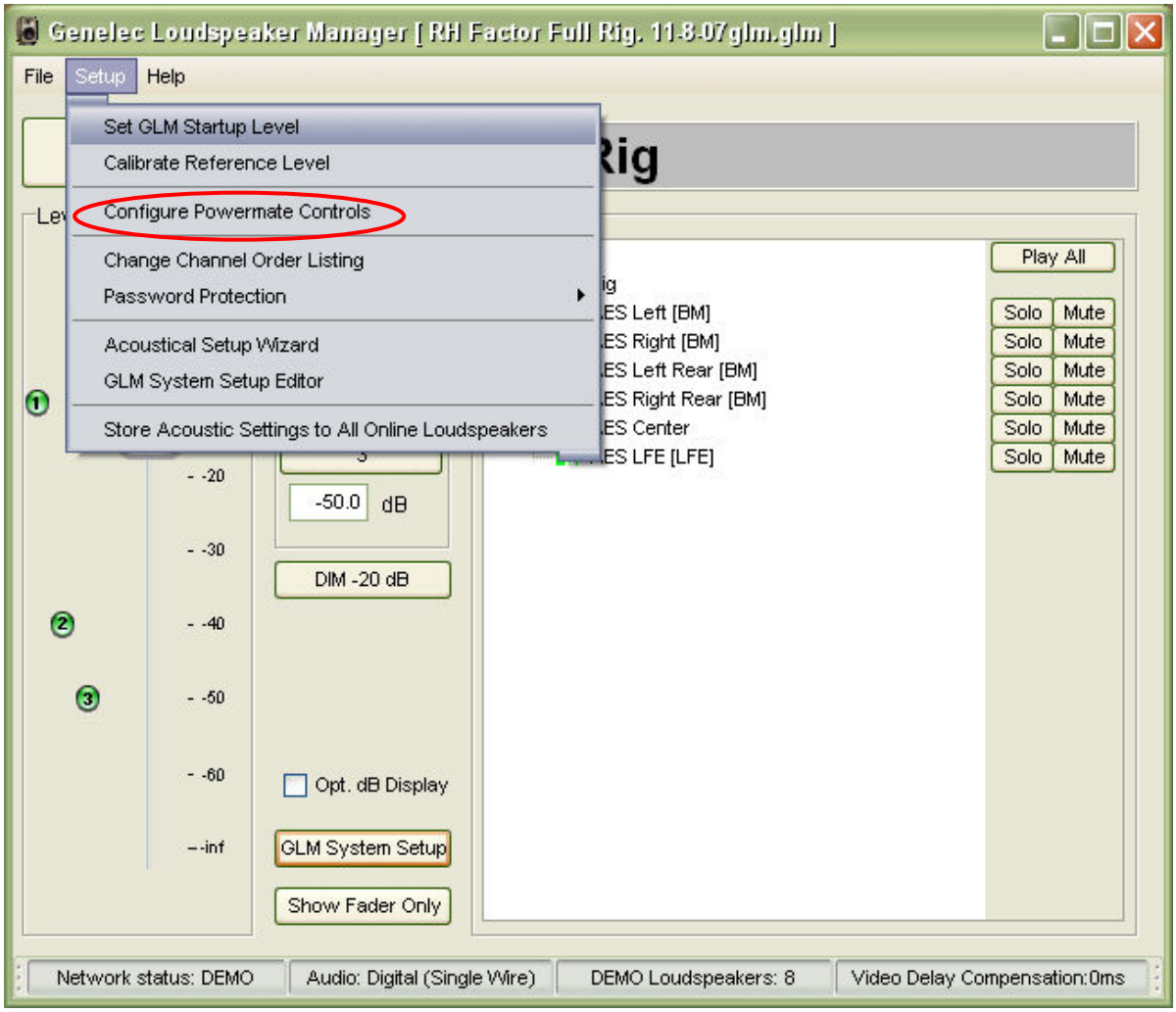
この機能は、モニター音量を調整するマスターフェーダー又、ボリュームユニットを操作した時のレベル状態の dB 表示を見やすくする為に、常時半透明のクローズアップウィンドウで数値を出すことができます。表示場所も自由に移動することが可能です。

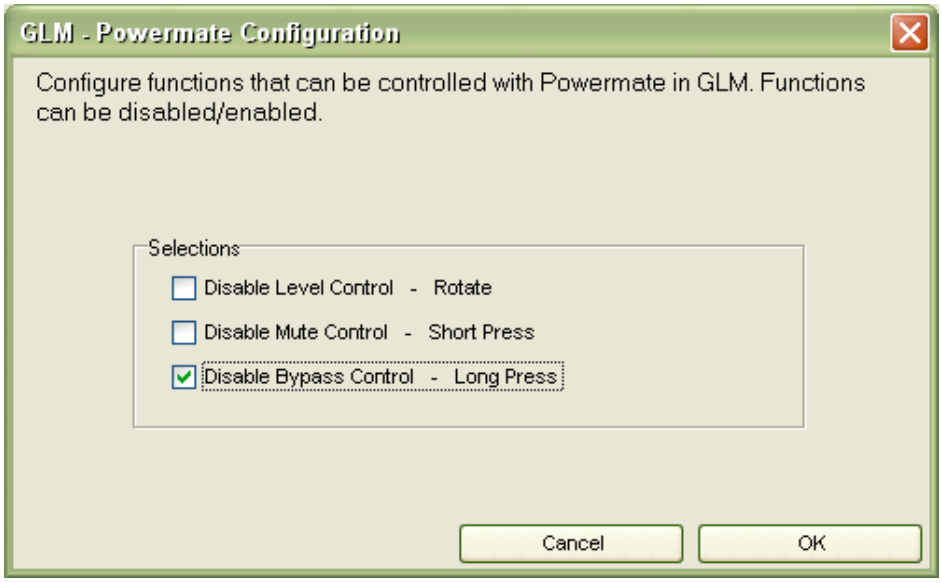


音量レベルの調整を行った場合は、リアルタイムに調整されてレベル数値が表示されます。さらに、前出の AutoLink機能で設定したショートカット KEY から音量レベルの調整を行った場合でも対応しています。

User Definable Disable/Enable functions on Griffin Powermate

オプションのボリュームユニット(8000-910/Powermate)には、ボリュームノブの操作で、音量調整以外に全音声ミュートとベースマネージメントの ON/OFF 操作ができますが、この 3 種類の機能を個別に禁止することができるようになりました。





上の画面例のような選択した場合は、長押し操作のベースマネージメントバイパス機能を禁止することができます。また、この画面での設定は、保存及び、再現ができます。

使用例:

1. ベースマネージメントバイパス機能を禁止した場合は、オペレーターが間違ってボリュームを長押ししてしまってもベースマネージメント状態が常時維持されますので、無意識に低域の音響干渉を起こすリスクを避けることができます。
2. 意図的にシステム起動時からモニター音量が 85dB SPL になるようにレベル設定をしていた場合に間違ってモニターレベルを変えてしまわないようにレベルコントロールを禁止することができます、この時にボリュームユニットで変更が可能なのは、音声ミュートを行うだけの機能しか働きません。
   （これは、Setup メニューの"Set GLM Startup Level"を選ぶと任意のモニター音量レベルが次回 GLM 起動時に再現できるようになった機能です。）

これらの設定は、再定義の操作を行うことで任意に変更できます。ディフォルトは、3 つとも OFF です。

関連ファイルのインストール場所の変更

Windows OS で一般的なインストールを行った場合に設定される GLM プログラムのパスは、
C:¥Program Files¥Genelec¥Loudspeaker Manager
AutoLink のアプリケーション・データファイルも同じパスに格納されます。

Windows XPで構成されるパス:
C:¥Documents and Settings¥"USER NAME"¥Genelec¥Loudspeaker Manager¥

Mac OSでのセットアップディレクトリーは、
~¥Documents¥Genelec¥ から
~¥Documents¥Genelec¥GLM¥ . へ変更されました。

Windows Vistaでは、GLM SetupファイルとAutoCalファイルは、既定されているUSERフォルダーに格納されます。これは、Windows Vista OSとしての新セキュリティ構築の項目に対応した結果です。
もし、XP OSで作った古いデータファイルをVista OSでも活かしたい場合は、データファイルの保存場所をVista OSで既定されているこのUSERフォルダーへ移動して下さい。Vista OSでのパスは、これです。
C:¥Users¥"USER NAME"¥Genelec¥Loudspeaker Manager¥Setup Files

過去のセットアップ・ファイルを GLM v1.2.0.で展開する方法

以前のバージョンの GLM セットアップ・ファイルのコピーを行う前に、新バージョンの GLM v1.2.0.を起動して、予め仮のセットアップ・ファイルを作って下さい。そうすると、ファイルの保存場所として必要なフォルダーが自動的に生成されます。
Windows XPでは、 **C:¥Program Files¥Genelec¥Loudspeaker Manager¥** からこのパスへコピーペーストして下さい。 **C:¥Documents and Settings¥"USER_NAME"¥Genelec¥Loudspeaker Manager¥"**

Windows Vistaでは、**C:¥Program Files¥Genelec¥Loudspeaker Manager¥** からこのパスへコピーペーストして下さい。 **C:¥Users¥"USER_NAME"¥Genelec¥Loudspeaker Manager¥**

Macintosh OSでは、**~/Documents/Genelec** からこのパスへコピーペーストして下さい。
~/Documents/Genelec/GLM

今後の予定

次回は、GLM SE用のソフトウェアーをリリースいたします。その時に、様々なOSに対応できる予定です。
ご意見、ご質問は、遠慮なくオタリテックまでお願いします。

オタリテック 株式会社 TEL 03-3332-3211 FAX 03-3332-3214
質問・資料請求フォーム : http://www.otaritec.co.jp/cgi/index.htm